【様式】

令和５年度　学校マネジメントシート

学校名（　三重県立四日市南高等学校　）

1　目指す姿

(1)目指す学校像		○高い志と豊かな人間性を育むとともに、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る学校 ○自主・自律の精神を養い、未来を切り拓き、社会に貢献しようとする意思を育む学校
(2)	育みたい児童生徒像	グラデュエーション・ポリシー（育成をめざす資質・能力に関する方針） ○明確な目的意識を持って、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高め合う生徒 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組むことを通して、豊かな感性や人権意識、自己有用感、他者と協働する力、リーダーシップ、向上心などを身に付け、社会に貢献しようとする意思を持つ生徒
	ありたい教職員像	○幅広い教養と高い専門性、子どもたちへの大きな愛情と豊かな人間性を備えた信頼される教職員 ○目指す学校像の実現に向け、実践を大切にし、自己研鑽に励むとともに切磋琢磨する教職員

2　現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ ○学力の向上と進路希望の実現 ○安全安心が確保され、あらゆる教育活動の場において頑張ることができる環境 ＜保護者＞ ○学力の向上と進路希望の実現、未来を切り拓き社会を生き抜く力の育成 ○一人ひとりが大切にされ、安全安心が確保されている学校環境 ＜地域＞ ○地域活動への積極的な参加による地域の活性化 ○郷土愛を持った地域のこれからを支える市民とリーダーの育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜保護者＞ ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信 ○いじめのない安全安心な学習環境 ＜中学校＞ ○本校の教育活動や生徒の状況、入試情報等の積極的な発信 ＜地域＞ ○地域活動への参加と協力 ○災害時対応を含めた施設の開放と活用	＜保護者＞ ○教育活動への理解と協力 ○基本的生活習慣の確立と家庭での学習環境の整備 ＜中学校＞ ○基礎学力と基本的生活習慣の定着 ○生徒に関する情報の共有 ＜地域＞ ○本校の教育活動への理解と協力 ○本校に不足する教育力の提供
(3)前年度の学校関係者評価等	○主体的、対話的な学びや ICT 機器の効果的な活用を推進するなど、授業改善への取組が重要である。 ○不登校生徒への対応を含め、安心して学校生活ができる環境づくりを継続して推進する必要がある。 ○生徒の意欲、主体性を大切にし、教育の変化に対応できる体制を構築することが重要である。	

(4) 現状と課題	教育活動	○部活動への加入率は高く、多くの生徒が学習と部活動を両立できるよう努力している。素直で真面目な生徒が多く、学習にも粘り強く取り組むことで、多くの生徒が国公立大学に進学するなど進路希望を実現している。 ○国の事業を受け、数学科で学校と家庭との途切れのない学習のための ICT 活用を研究するなど、一人一台端末に対応した取組が進められている。 ○受動的な学びにとどまっている生徒が多く、自立した学習者となるよう主体的に考え、能動的に学習に向かうしくみを工夫していく必要がある。 ○自立した学習者となるよう、一人一台端末時代に対応した個別最適化の学びを研究するとともに、教科等横断的な取組を総合的な探究の時間を中心に構築する必要がある。
	学校運営等	○教職員は熱心に学習指導や部活動指導などを行っており、安定した進学実績を残すことができているが、教職員の過重労働は解消されていない。 ○新型コロナの影響によりさまざまな業務の見直しが余儀なくされた。このことをチャンスととらえ、ICT の活用等により効率的・効果的な業務改善につなげていく必要がある。 ○不登校や特別な支援を必要とする生徒は増加傾向にあり、その要因や背景も多様化している。教員は一人ひとりに寄り添った丁寧な支援を行っているが、出口の見えないケースも多く、対応に苦慮している。 ○生徒へ必要な支援が届くよう、教育相談のコーディネート機能をより充実させ、心理や特別支援、医療、福祉などの専門性を持つ外部人材や外部機関との連携・協働をより強力に推進していく必要がある。

3　中長期的な重点目標

教育活動	**カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）** ○一人ひとりの可能性を引き出し、高い志を持って自己実現と進路実現が図られるよう、基礎基本を基盤とし、幅広い知識と教養を身に付けられるバランスのとれた教育課程を編成する。 ○１年次には全員が共通の教科を学び、２年次からは個々の進路や適性に応じて文系コース、理系コースに分かれ、進路希望の実現に必要な学力を身に付ける。 ○生徒が主体的に考え、行動するホームルーム活動や生徒会活動、部活動、学校行事などの特別活動を通して、豊かな感性や人権意識、自己有用感、他者と協働する力、リーダーシップ、向上心などを養い、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を育成する。
学校運営等	○生徒につけたい力をふまえた授業内容の検証や ICT の効果的な活用等により、授業改善に取り組むとともに、カリキュラムマネジメントの的確な実施を図る。 ○教職員一人ひとりが自己の職責を自覚するとともに、県民視線を大切にしたコンプライアンス意識の向上に取り組む。 ○根拠なき前例踏襲に陥らない、新しい発想を大切にした組織運営を推進するとともに、業務の精選、ICT の活用などによる業務の効率化を進め、総勤務時間の縮減、やりがいを持って健康に働くことができる職場環境づくりに取り組む。

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考

学習指導	○新学習指導要領や大学入試改革に対応した授業内容の検証・改善 ○一人一台端末時代に向けたICTの効果的な活用による授業改善 ○「総合的な探究の時間」の３年間を見通した計画の再構築 ○家庭学習の充実と定着 【活動指標】 ・シラバス内容の検証とそれに基づく授業実践 ・観点別評価の検証と評価方法の改善 ・教科横断的な「授業参観月間」の設定 ・ICTの効果的な活用事例の収集と共有 ・図書・探究支援部を中心に各学年・分掌が連携し、生徒の探究心を刺激する四日市南高校版「総合的な探究の時間」の構築 ・家庭学習時間と課題の内容・量・教科バランスとの関連に注視しながら、主体的な学びを促進 【成果指標】 ・生徒アンケート「授業内容はよくわかりますか」の肯定的回答の割合　９５％以上 ・生徒アンケート「授業では自分で考え、自分から取り組んでいますか」の肯定的回答の割合　９５％以上	・シラバス内容、授業内容の検証、改善 ・観点別評価の検証、評価方法の改善 ・ICTの効果的な活用 ・「総合的な探究の時間」の構築 【生徒アンケート】 ①「授業内容はよくわかりますか」 89.2%（7月調査） 90.5%（12月調査） ②「授業では自分で考え、自分から取り組んでいますか」 92.4%（7月調査） 90.7%（12月調査）	◎ ◎
進路指導・キャリア教育	○「キャリア教育プログラム」に基づく、教育活動全体を通した自己実現に向けたキャリア教育を推進 【活動指標】 ・各学年、年６回程度の個人面談を実施 ・進路を考える機会として進路講話・講演会などを計画的に実施 （進路講話、進路講演会、県職・教職ガイダンス、OB講演会、学部学科説明会、先輩と語る会、キャリアデザイン講座など） 【成果指標】 ・生徒アンケート「目標の達成をめざして、学習などができていますか」の肯定的回答の割合　９０％以上 ・生徒アンケート「困難だと思うことでも、前向きに考えて挑戦していますか」の肯定的回答の割合　９０％以上	・個人面談の実施 ・様々な講演会の実施 【生徒アンケート】 ①「目標の達成をめざして、学習などができていますか」 81.0%（7月調査） 81.7%（12月調査） ②「困難だと思うことでも、前向きに考えて挑戦していますか」 85.7%（7月調査） 87.1%（12月調査）	
安全安心	○「いじめ防止基本方針」、「命を大切にする教育年間指導計画」及び「人権教育推進計画」等に基づく確実な教育実践 【活動指標】 ・各学年、年６回程度の個人面談を実施（再掲） ・学校生活に関するアンケートを年２回実施 ・各学期にいじめに関するアンケートを実施 ・オンラインでいつでも、どこでも、いじめや悩みを打ち明けられるシステムの構築と適切な運用 ・定期的に教育相談・特別支援教育推進委員会を開催し、生徒情報を共有 ・心理や特別支援、医療、福祉など専門性を持つ外部人材や外部機関との連携・協働を推進 ・毎月、重点指導期間を設定（校門等での声かけ、挨拶、交通指導等） 【成果指標】 ・生徒アンケート「困ったことや心配事などを、先生や友だちに相談することができますか」の肯定的回答の割合　９５％以上 ・生徒アンケート「学校生活を送る中で、安心して学習することができますか」の肯定的回答の割合　１００％	・個人面談の実施 ・学校生活アンケートの実施 ・学期毎にいじめに関するアンケート実施 ・常設のいじめ相談室を設置 【生徒アンケート】 ①「困ったことや心配事などを、先生や友だちに相談することができますか」 92.0%（7月調査） 91.0%（12月調査） ②学校生活を送る中で、安心して学習することができますか」 97.2%（7月調査） 96.9%（12月調査）	◎ ※
改善課題			

○大学入試改革、教育の情報化等の教育の変化に対応するとともに、ICT の効果的な活用を推進し、充実した学習指導ができるよう授業改善に取り組む必要がある。
○生徒の進路実現及び将来の自己実現のために、充実したキャリア教育を推進していく必要がある。
○不登校生徒や様々な課題を持つ生徒に対応するため、専門機関との連携を含め、組織的に的確に対応できるよう校内の体制を整える必要がある。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の 指導力向上	○ICT の効果的な活用事例の収集と共有および ICT 環境の整備 ○校外研修会への積極的参加 ○いつでも授業参観の雰囲気醸成 【活動指標】 ・図書・探究支援部を中心に ICT の効果的活用事例の収集と発信 ・学力向上委員会の開催　４回以上／年 ・各種現職教育の実施（年２回以上）と校外研修への参加 ・授業参観月間の設定（年２回） 【成果指標】 ・生徒アンケート「「知識」や「技能」が向上した」の肯定的回答の割合　９５％以上 ・生徒アンケート「「考える力」や「表現する力」が向上した」の肯定的回答の割合　９５％以上 ・生徒アンケート「授業内容についてより深く学びたいと思うようになった」の肯定的回答の割合　９５％以上	・現職教育の実施 ・授業参観月間の実施 【生徒アンケート】 ①「「知識」や「技能」が向上した」 93.8%（7 月調査） 94.5%（12 月調査） ②「「考える力」や「表現する力」が向上した」 90.7%（7 月調査） 91.0%（12 月調査） ③「授業内容についてより深く学びたいと思うようになった」 86.8%（7 月調査） 87.6%（12 月調査）	
組織力向上	○根拠なき前例踏襲に陥らない組織づくり ○お互い気軽に声をかけあうことができ、コンプライアンス遵守の雰囲気が醸成されている職場づくり ○ICT 環境の整備および共有サーバー内情報の整理・再構築 【活動指標】 ・各分掌・学年からの改善提案とその検討 ・学校信頼向上委員会の開催　４回以上／年 ・共有サーバーの情報管理と使いやすさの検証 【成果指標】 ・各分掌・学年からの提案に基づく改善　１件以上 ・共有サーバー内の情報を活用しやすくなったとする教員の割合　５０％以上	・改善提案と検討、改善 ・コンプライアンス研修の実施 ・教職員の利用パソコンの更新及びシステム環境の更新 ・システム更新及びクラウド環境の整備の関係から共有サーバーの整理は継続 ・内規の整理	◎ ※

働きやすい職場づくり	○風通しが良く、やりがいが感じられる職場づくり ○時間外勤務時間の縮減 【活動指標】 ・定時退校日（月に１度）に定時退校できた教職員の割合　１００％ ・予定通り（週に１度）休養日を実施できた部活動の割合　１００％ ・放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合　９０％以上 ・スクールサポートスタッフやスクールカウンセラーなど、外部人材の積極的な活用 【成果指標】 ・時間外勤務時間が年３６０時間を超える教職員数　０人 ・時間外勤務時間が月４５時間を超える教職員数の延べ人数　０人 ・１人当たりの月平均時間外勤務時間　３０時間以下 ・１人当たりの年間休暇取得日数　１０日以上	【活動指標】 定時退校　80.9% 部活動休養日 99.9% 60 分以内会議　85.3% （4 月～12 月） 【成果指標】 時間外勤務時間 年 360 時間超　15 人 月 45 時間超 延べ 113 人 月平均時間外時間 23.3 時間 休暇取得日数 年次休暇　10.6 日 夏季休暇　4.4 日 （4 月～1 月）	◎

改善課題
○ICT 環境の整備とともに、ICT の効果的な利活用を推進し、教職員の専門性の向上及び指導力の向上を図っていく必要がある。 ○教職員の不祥事が問題視されており、県民視線を大切にしたコンプライアンス意識の向上に向けた取組の継続が必要である。 ○教職員の意識改革、働き方改革を進め、働きやすい職場づくりを整えていく必要がある。

5　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○主体的、対話的な学びや ICT 機器の効果的な活用の推進、探究の要素を取り入れるなど、授業改善への継続的な取組が重要である。 ○生徒アンケートの目標達成の数値が低く感じる。自己肯定感を高める取り組みなど、自己実現に向けた多様なキャリア教育の取組に期待します。 ○個人面談の実施、不登校生徒への対応、いじめ防止の取組など、安心して学校生活ができる環境づくりを今後も継続して推進することが重要である。

6　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○大学入試改革、様々な教育の変化に対応するとともに、充実した学習指導ができるよう授業改善の取組を継続して進める。 ○生徒の進路実現及び将来の自己実現のために、多様で充実したキャリア教育を推進する。 ○不登校生徒や様々な課題を持つ生徒の支援について、的確な対応や専門機関との連携など、学校組織として対応できるよう校内の体制づくりを進める。
学校運営についての改善策	○研修の充実や情報の提供を進め、ICT 機器の利活用を含めた教職員の専門性の向上、指導力の向上を図る取組を進める。 ○ICT 環境の整備、職場環境の改善を図り、働きやすい職場づくり及び組織力の向上に向けた取組を進める。 ○教職員の意識改革を進め、働き方改革、コンプライアンス確保に向けた取組を継続して進める。